

令和4年度 出資法人経営評価表

法人名	公益財団法人滋賀県環境事業公社
-----	-----------------

1 人員、県の人的関与の状況

(単位：人)

①会員の状況（社団法人のみ）		R2年度	R3年度	R2→R3増減				
②役員の状況		R2年度	R3年度	R2→R3増減	R4年度			
評議員総数		5	5		5			
	うち県職員（特別職を含む。）	1	1		1			
	うち県退職職員（OB）							
理事総数		10	10		10			
	うち県職員（特別職を含む。）	3	3		3			
	うち県退職職員（OB）	5	5		5			
	うち常勤役員数	2	2		2			
	うち県職員（特別職を含む。）							
	うち県退職職員（OB）	2	2		2			
監事総数		2	2		2			
	うち県職員（特別職を含む。）							
	うち県退職職員（OB）							
	うち常勤監事数							
	うち県職員（特別職を含む。）							
	うち県退職職員（OB）							
報酬額・年齢								
	常勤役員の平均年齢	63.5	62.5	△ 1.0	63.5			
	常勤役員の平均報酬（年額）（千円）	5,395	5,183	△ 212	5,293			
	役員の報酬総額（年額）（千円）	11,043	10,590	△ 453	10,866			
③職員の状況		R2年度	R3年度	R2→R3増減	R4年度			
職員総数		10	10		10			
	常勤職員	7	7		7			
	プロパー職員	2	2		1			
	うち県退職職員（OB）	1	1					
	県等からの派遣職員	5	5		6			
	うち県派遣職員	5	5		6			
	臨時・嘱託職員							
	うち県退職職員（OB）							
	非常勤職員	3	3		3			
	うち県派遣職員							
	うち県退職職員（OB）	1	1		1			
	プロパー職員の平均年齢	61.5	62.5	1.0	-			
	プロパー職員の平均給与（年額）（千円）	5,668	5,385	△ 283	-			
	職員の給与総額（年額）（千円）	58,445	57,608	△ 837	54,948			
	プロパー職員の年代別職員数	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合計
	(令和4年度当初実数)						1	1

2 県の財政的関与の状況

(単位：千円)

項		目	R2年度	R3年度	R2→R3増減	R4年度	備考(R4内訳)
県からの 年間 収入額	補助金	事業費補助金					
		運営費補助金	6,464	6,289	△ 175	6,197	派遣職員共済組合負担金等 6,197
	負担金						
	委託料						
	その他		170,011	119,588	△ 50,423	34,190	県からの出えん金 34,190
	合計		176,475	125,877	△ 50,598	40,387	
年度末 残高	県からの借入金						
	県からの損失補償・債務保証		324,440	120,560	△ 203,880		
短期貸付金の金額（期間中の県からの借入れで、同一年度に貸付けと返済の双方が行われるもの）							

3 評価

区分	評価項目	評価内容	該当項目に○			出資法人の所見	県の所見
			R1	R2	R3		
効果性	中期経営計画、年度目標の策定	中期経営計画、年度目標とも策定している。 中期経営計画のみ策定している。 年度目標のみ策定している。 策定していない。	○	○	○	公共関与による県内唯一の産業廃棄物管理型最終処分場として循環型社会形成の一翼を担っており、産業廃棄物の適正処理や企業立地のための産業基盤として重要な役割を果たしている。 平成29年3月に策定した第2期中期経営計画の下、継続して着実な管理運営等に努めた結果、令和3年度においても単年度経常収支の黒字を達成し、平成23年度以降連続で単年度経常黒字を達成するなど、着実に成果を上げている。 また、環境監視委員会、地元区との情報交換ならびに排出事業者訪問等を通じて、住民や関係者等のニーズの把握に努めている。	平成28年10月に策定された県基本方針を踏まえ策定した第2期中期経営計画に基づいた取組を着実に実施している。財務・経営において第2期中期経営計画に基づく目標達成に取り組んでおり、順調に運営されていると認識している。 県内唯一の産業廃棄物管理型最終処分場として、安定・適正な施設運営を継続して行っている。 また、3Rの取組推進および美化活動に対する支援や地域協働原状回復事業での不法投棄廃棄物の受け入れを行うとともに、住民・関係者のニーズについても様々な機会を捉え把握に努めており、社会情勢に適合した事業に取り組んでいることから、公社の事業の意義は大きい。
	事業活動の社会情勢への適合性	全ての事業が社会情勢に適合し、その意義は大きい。 社会情勢に照らして意義が薄れてきた事業がいくつかある。 社会情勢に照らして意義の薄れてきた事業が多くある。	○	○	○		
	活動の成果の達成度	活動について成果目標を定め、目標以上に達成している。 活動について成果目標を定め、目標どおり達成している。 活動について成果目標を定め、概ね目標どおりに達成している。 活動について成果目標を定め、達成しているものもあるが、十分ではない。 活動について成果目標を定めていない。	○	○	○		
	住民、関係者等のニーズの把握状況	多様な調査を実施し、積極的にニーズの把握に努めている。 ニーズを把握するための手段を講じている。 具体的な取組はしていない。	○	○	○		
効率性	経常費用に占める管理費の状況	管理費比率が2期連続で減少した。 管理費比率が前期に比べ減少した。 管理費比率が前期に比べ増加した。 管理費比率が2期連続で増加した。			○	令和3年度は、前年度に比べ事業費が増となった一方で管理費は減となったため、管理費比率は減少した。 また、処分料金収入について、処分料金単価は前年度より下がったものの搬入量は計画を達成したことで、一定の収入を確保できた。	令和3年度は、減価償却費や委託費等の事業費が増加するとともに、管理費である地域振興に対する支払助成金が減少したため、2期ぶりに管理比率が減少した。 前年度と比較して、処分料金収入や県からの出えん金が減少したため経常収益が減少した一方で、経常費用が増加した。しかしながら、なお経常収益が経常費用を上回っており、また搬入量は計画を達成したことから、安定した経営が行われている。
	経常収益・費用の比率	経常収益が2期連続で経常費用を上回った。 経常収益が、当期は経常費用を上回った。 経常収益が、当期は経常費用を下回った。 経常収益が、2期連続して経常費用を下回った。	○	○	○		
健全性	債務超過の状況	当期末において債務超過でない。 2期連続で改善した。 前期に比べ改善した。 前期に比べ悪化した。 2期連続で悪化した。	○	○	○	県の財政支援および処分料金収入の安定により財政状況は改善し、平成23年度以降は単年度収支が黒字に転換し、さらに平成27年度からは一般正味財産期末残高が黒字に転じ、累積欠損金も解消した。 また、短期的支払能力について流動比率が令和3年度も100%を超えるとともに、借入金依存率も年々減少している。 なお、正味財産期末残高については、令和2年度と比較して、収入が処分料金収入や県からの出えん金の減等により減額となったこと、および支出が減価償却費や委託料の増等により増額となったことで、前期に比べて減少した。	平成26・27年度における廃棄物受入量の増加に伴う処分料金収入の増加により、平成27年度に累積欠損金が解消した。 また、借入金の計画的な返済により毎年着実に借入額が減少しており、令和4年度をもって完済となる。 正味財産期末残高の減少は、前年度と比較して、処分料金収入や県からの出えん金等の収入が減少し、減価償却費や委託料等の支出が増加したためであるが、公社の経営に影響はなく、今後も引き続き、処分料金の確保により、健全な運営に努められたい。
	正味財産期末残高の状況	2期連続で増加した。 前期に比べ増加した。 前期に比べ減少した。 2期連続で減少した。	○		○		
	累積欠損金の状況	当期末において累積欠損金はない。 累積欠損金は、2期連続で減少した。 累積欠損金は、前期に比べ減少した。 累積欠損金は、前期に比べ増加した。 累積欠損金は、2期連続で増加した。	○	○	○		
	短期的支払い能力の状況	流動比率は、2期連続で100%以上であった。 流動比率は、当期は100%以上であった。 流動比率は、当期は100%未満であった。 流動比率は、2期連続で100%未満であった。	○	○	○		
	借入金依存率の状況	当期末において借入金はない。 2期連続で低下した。 前期に比べ低下した。 前期に比べ上昇した。 2期連続で上昇した。	○	○	○		

区分	評価項目	評価内容	該当項目に○			出資法人の所見	県の所見
			R1	R2	R3		
自立性	知事・副知事の代表者への就任状況	知事・副知事が法人の代表者へ就任していない				知事が理事長に就任していることにより、最終処分場の設置・運営について地元住民の安心を確保できている。	県が公共関与により設置した産業廃棄物最終処分場の運営に対する県の姿勢を明確にし、地域や地元住民の安心感が維持できている。
		知事・副知事が法人の代表者へ就任している	○	○	○		
	県派遣職員の状況	当期末において県派遣職員はない				埋立管理や建設工事の施工、水質管理等業務の実施にあたり、専門的知識を有する県職員の派遣が必要である。	埋立管理や建設工事の施工、水質管理等の業務の実施には専門知識を有する県職員の派遣が必要なため、会社からの要請に基づき職員を派遣し、人的支援を行った。
		常勤職員に占める県派遣職員の割合が前期に比べ低下した。 常勤職員に占める県派遣職員の割合は前期と概ね同程度 常勤職員に占める県派遣職員の割合が前期に比べ上昇した。	○	○	○		
	県退職職員の就任状況	当期末において県退職職員はない					
		常勤職員に占める県退職職員の割合が前期に比べ低下した。 常勤職員に占める県退職職員の割合は前期と概ね同程度 常勤職員に占める県退職職員の割合が前期に比べ上昇した。	○	○	○		
県財政支出の状況	当期末において県の財政支出はない。				県からの受取入えん金、受取補助金の額の減少割合が経常収益の減少割合より大きかったことから、経常収益に占める県の財政支出の割合は減少した。	県からの入えん金等が大幅に減少したため、県の財政支出の割合も減少した。 また、借入金の着実な返済により損失補償の額も減少している。 なお、借入金の完済に伴い、令和4年度をもって県からの入えんおよび損失補償が終了する。	
	経常収益に占める県の財政支出の割合が2期連続で低下した。 経常収益に占める県の財政支出の割合が前期に比べ低下した。 経常収益に占める県の財政支出の割合が前期に比べ上昇した。 経常収益に占める県の財政支出の割合が2期連続で上昇した。	○	○	○			
短期貸付金の金額(期間中の県からの借入れで、同一年度に貸付けと返済の双方が行われるもの)の状況	当期間中において県の短期貸付けはない	○	○	○			
	県の短期貸付けの額が2期連続で減少した。 県の短期貸付けの額が前期に比べ減少した。 県の短期貸し付けの額が前期と同額である。 県の短期貸付けの額が前期に比べ増加した。 県の短期貸付けの額が2期連続で増加した。						
損失補償の状況	当期末において県の損失補償・債務保証はない	○	○	○			
	県の損失補償・債務保証の額が2期連続で減少した。 県の損失補償・債務保証の額が前期に比べ減少した。 県の損失補償・債務保証の額が前期と同額である。 県の損失補償・債務保証の額が前期に比べ増加した。 県の損失補償・債務保証の額が2期連続で増加した。						
透明性	情報公開規程の整備状況	規程を整備している。 規程を設けていない。 規程を設けていない(県の資本金等の割合が1/2未満)。	○	○	○	ホームページで経営状況や最終処分場周辺河川の水質等の環境関係情報を公開するなどの情報提供を行っている。 文書管理については、管理規程に基づき、適正に管理している。 また、財務諸表等については、作成過程で会計事務所の指導・助言等を受けており、業務監査も実施している。 また、財務諸表について、会計の専門家の助言を受けるとともに、業務監査も実施されており、透明性は確保されている。	
	情報公開の実施状況	ホームページ等により不特定の者に対し情報公開を行っている。 不特定の者に対し情報公開を行っていない。	○	○	○		
	文書管理規程の整備状況	規程を整備している。 規程を設けていない。 規程を設けていない(県の資本金等の割合が1/2未満)。			○		
	文書管理の実施状況	情報公開の資料に係る文書の作成、整理、保存等を行っている。 情報公開の資料に係る文書の作成、整理、保存等を行っていない。			○		
	会計専門家の関与状況	作成した財務諸表について、会計監査人監査を受けている、または、財務諸表の作成過程で、会計の専門家の指導・助言を受けている。 会計の専門家による監査・指導・助言等は受けていない。	○	○	○		
	業務監査の実施状況	業務監査を実施している。	○	○	○		
		業務監査を実施していない。					

	出資法人の総合的評価・対応	県による総合的評価・対応		
事業に関する事項	平成26年2月に公益財団法人へ移行し、クリーンセンター滋賀の安全・安心な運営を通じて、「一、産業廃棄物の安全かつ適正な処分の推進」、「二、廃棄物の適正処理および3Rの取組推進」、「三、県民の生活環境の保全・改善の促進」を柱とする効率的で持続可能な循環型社会を創る事業を、積極的に実施している。 また、事故防止やコンプライアンスの徹底を図りながら、最終処分場の社会的な信頼性を高めるため定期的に埋立処理情報等を公開しており、引き続き安全と安心を第一に開かれた施設運営を行っていく。	<p>公社は、県内において管理型産業廃棄物の安全かつ適正な処理の推進を図る事業等を実施することにより、地域における循環型社会の形成、地域社会の健全な発展、県民の生活環境の保全および産業の健全な発展に寄与している。</p> <p>県は、引き続き安全・安心な施設運営により、所期の目的が達せられるよう支援していく。</p>		
財務に関する事項	県の出えんによる財政支援の効果および処分料金収入の安定により、平成23年度以降、単年度経常収支の黒字化を達成しているほか、平成27年度から一般正味財産期末残高が黒字に転じ累積欠損金も解消され、財務状況の課題は解決している。 また、今後も安定した処分料金収入を確保し、埋立終了後の維持管理費用等の財源を確実に積み立てる。	<p>安定的な収入の確保など公社自らの経営努力と県の継続した資金面での支援により、平成23年度以降経常収支が黒字化するとともに、平成27年度には累積欠損も解消しており、財務面においては着実に改善している。</p> <p>また、施設整備や埋立終了後の維持管理費に必要な経費の積立てを行うなど将来的な課題に対応できるよう取り組んでいる。</p>		
行政経営方針実施計画に関する事項 ※実施計画は次頁参照	平成28年度末に策定した第2期中期経営計画に基づき、安定的な経営を維持するとともに、今後は令和3年度末に策定した第3期中期経営計画により、埋立終了後のセンターの維持管理について検討を行う。	<p>公社において平成28年度末に策定された第2期中期経営計画に基づき安定的な運営が行われるよう、県としても必要な支援を行っている。</p> <p>また、令和3年10月にクリーンセンター滋賀の管理運営に係る基本方針を策定し、これに基づき令和3年度末に公社が第3期中期経営計画を策定しており、安定した施設運営と埋立容量の適正な管理に取り組んでいる。</p>		
	実施計画に定める「具体的な取組内容」の進捗状況		実施計画に定める「具体的な取組内容」の進捗状況	
	平成28年度末において、平成29年度から令和3年度までの5年間の第2期中期経営計画の策定を行い、平成29年度からはこれに基づく取組を行っている。		<p>第2期中期経営計画に基づき、取組を順調に実施しており、令和3年度は4つのうち3つの目標を達成している。</p> <p>なお、未達成となった「県への財政依存度の年度毎減少」は、令和2年度に浸出水処理施設増強工事に伴う積立金の取り崩しが行われたことで収入が増加し、相対的に令和3年度の値が増加したためであるが、事業計画に沿ったものであり、公社の経営に支障をきたすものではない。</p>	
	実施計画に定める目標	左の実績	実施計画に定める目標	左の実績
<ul style="list-style-type: none"> ・経常収支の黒字維持 ・自己資本比率50%以上 ・借入金依存率30%以下 ・県への財政依存度の年度毎減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・経常収支 407,551千円の黒字 =達成 ・自己資本比率 61.7% =達成 ・借入金依存率 2.3% =達成 ・県への財政依存度の年度毎減少 R2: 9.2% > R3: 9.4% =未達成 	-	-	
総合所見	<p>県内唯一の産業廃棄物管理型最終処分場であるクリーンセンター滋賀の安定的な施設運営と埋立管理を継続するため、平成28年度に第2期中期経営計画を策定した。計画していた施設整備工事が完了し埋立容量が確保できたこともあり、今後は全体埋立容量を確実に達成できるよう、受入廃棄物の量と質を確保しながら、搬入量の確保を図っていく。</p> <p>また、埋立終了後の環境保全対策や維持管理等の施設運営についての検討を行うとともに、これらにかかる経費を精査のうえ、確保に努める。</p>	<p>公社においては、第2期中期経営計画に基づいた取組を順調に実施しており、今後も安定した施設運営を行うため、県においても、公社の事業の独自性や専門性に応じた人的支援を行う必要がある。</p> <p>また、公社は引き続き、令和5年10月の埋立期間終了を見据えた廃棄物の受け入れ量の確保と徹底した埋立容量の適正な管理に努めるとともに、処分料金収入の確保に努める必要がある。</p> <p>今後は、第3期中期経営計画に基づき、埋立終了後の維持管理方法や体制の方向性等、県と公社で十分に検討を行う必要がある。</p>		

【参考資料】

財務諸表等へのリンク

<http://www.shiga-ki.com/kousya/houkoku.html>

※行政経営方針実施計画(2019年度～2022年度)

基本的な考え方 (現状認識・今後の方向性)	当法人は、平成20年度(2008年度)のグリーンセンター滋賀開業当初から債務超過が続いていたが、その後経営改善に努めた結果、平成27年度(2015年度)には解消した。その後、平成29年(2017年)3月に策定した中期経営計画(平成29年～令和3年(2017年～2021年))に沿って、安定的な施設運営と適正な埋立管理を行っており、引き続き法人の経営の安定化に向けた改善に取り組む。					
具体的な取組内容	(平成30年度 (2018年度))	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	目標
1 「中期経営計画」(平成29年(2017年)3月策定、平成29年～令和3年(2017年～2021年)の5年間に)に基づき、引き続き安定した経営基盤の確保に取り組む。【出資法人】						<ul style="list-style-type: none"> ・経常収支 毎年度 黒字 ・自己資本比率 毎年度 50%以上 ・借入金依存率 毎年度 30%以下 ・安定・適正な施設運営の継続 令和5年度(2023年度)
2 廃棄物の適正な受入・埋立管理に引き続き取り組む。【出資法人】						<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な施設整備工事による埋立容量の確保 令和元年度(2019年度)
3 埋立終了後の管理方法の検討等を行う。【出資法人】						<ul style="list-style-type: none"> ・埋立終了後の適切な管理の検討 令和5年度(2023年度) ・維持管理積立金の確保 令和5年度(2023年度)
4 「グリーンセンター滋賀の今後の運営に係る基本方針」(平成28年(2016年)10月策定)に基づき、公社の経営安定化に資するよう県の資金的支援を継続する。【県】						<ul style="list-style-type: none"> ・公社における経常事業収支の自律確保を基本原則とし、県としては、埋立終了期限の令和5年(2023年)10月までグリーンセンター滋賀を大切な資産として有効に活用できるよう、資金面での計画的な支援を行う
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・「法人の代表者へ知事が就任している」、「県による損失補償がある」 ※平成31年(2019年)3月時点 					